

平成26年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

特別活動研修講座

平成26年5月7日(水)

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

教員が体験活動の意義について理解するとともに、学級での仲間づくりに体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

2. 事業の概要

(1) 日程

平成26年5月7日(水)

(2) 募集人員

30名 (小学校, 中学校, 高等学校, 中等教育学校, 特別支援学校の教員)

(3) 参加者

19名

(4) 講師 国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職

(5) 企画・運営のポイント

- 岡山県総合教育センターの研修講座に野外活動の講座を開設して、岡山県教育庁義務教育課・岡山県小学校長短期宿泊体験活動を実施する学校の教員と管轄教育委員会に参加依頼をした。
- 「吉備の森冒険教育活動」を用い体験活動をととして仲間づくりの指導法と体験活動の必要性について体験的に学べるように構成した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

	9	10	11	12	13	14	15	16
晴天時		受付	開講式	研修	昼食	研修		退所
		多	多	多 CR CRK	レストラン	多 CR CRK		
荒天時		同上	同上	同上	同上	同上		

(2) 活動の状況

【午前】効果的な集団宿泊活動における企画から評価までの流れ

【午後】効果的な集団宿泊活動における企画立案

〈研修の様子〉



体験活動の意義



体験活動①



体験活動②



体験活動③



体験活動④



目標設定

4. 成果・課題

(1) 成果

- ・今年度から岡山県内の小学校での長期集団宿泊体験活動を導入するに当たり、関係団体（小学校、管轄教育委員会、県内の受け入れ青少年教育施設）を一堂に会して行うことができた。
- ・「効果的な集団宿泊活動における企画から評価までの流れ」では、機構発行の「学校における『集団宿泊活動』の手引き」を用いて体験の意義について説明した。また、体験活動の教育課程の位置付けと評価の在り方も併せて説明した。そして体験活動の指導効果を調査・分析するツールとして「IKR調査」を紹介するとともに、事後評価を行い次年度につなぐことも重要であることを確認した。集団宿泊体験活動をより効果的なものにするための指導法についてとして、体験から学ぶ指導法について講義と演習を関連づけて研修することができた。
- ・「効果的な集団宿泊活動における企画立案」では、本所が作成した「小学校長期宿泊体験活動のご案内」を用いて、目的や目標を意識して活動を組むというプログラムデザインの仕方を説明することができた。また、多くの学校がプログラムに取り入れる野外炊事とオリエンテーリングの効果的な指導法について安全管理も含めて説明することができた。効果的な活動にするためには、いくつもの指導法の中から目的に合ったものを選択する必要があることを実例を基に説明することで実際の宿泊活動で活用することができた。
- ・実施校とその教育委員会・青少年教育施設などの関係者が参加していることから、効率よくプログラム相談ができ、本研修で学んだことを活かして打ち合わせを行うことができた。

(2) 参加者の声

- 事業全体に対する満足度・・・100%

[参加者自由記述]

「楽しい研修でした。良い勉強の場となり、充実した1日でした。」

「自然教室を目前にひかえ、助かりました。」

「説明が一貫しており、ねらいが明確でした。」

「最後に情報交換の場があり、より深い協議となりました。」

「3泊4日の宿泊体験の有効性をぜひ、各校の管理職の方々に説明していただきたいと思った。」

「活動は目的を明確にしておかないと効果が高まらないことがよく分かりました。」

「実際のアクティビティの運営方法が分かり、参考になりました。」

(3) 今後の課題等

- ・それぞれの機関が代表者の参加だったので、研修で得た内容を実際に関わる指導者や職員で共有する必要がある。できれば各機関で複数の関係者が参加することが望ましい。また、情報を手軽に入手できるようにしてその都度共有ができるように環境を整備したい。
- ・今年度実施の評価を次年度に生かし、よりよいプログラム作成と活動の指導・支援の在り方を検証していきたい。

担当：主任企画指導専門職 宇江 賢